徳島新聞令和８年１１月１３日掲載
コピー、転載禁止



糖尿病対策の今 死亡率ワースト・徳島 医療 (下)

# 最新医療で克服目指す

徳島の県民病とも言える糖尿病の克服に医療面から取り組むのが、四国最大の特定機能病院の徳島大学病院。年間約1700人の糖尿病患者を受け入れ、最先端の医療で診察に当たっている。

同院の患者の多くは複数の合併症があり、地域の医療機関で治療が困難になった重症者。血糖値が高い状態が続くと血管が傷み、眼や腎臓、心血管系の障害が進行して生活の質（QOL）の低下と健康寿命の短縮につながる。高齢者や罹患期間が長い人は血糖コントロールが難しくなるだけでなく、使用する薬剤についてもきめ細かい配慮が必要となる。

通院で血糖コントロールが難しい患者は、まず2週間入院してもらう。日常生活で必要な知識を学んでもらうとともに、病状を確認するのが目的。脂質や塩分を抑えた食事をゆっくりとよくかんで食べることや、合併症の状態に応じた運動、日々の体重測定など細かくアドバイスした上で、インスリンの分泌量や合併症の進行度を見て、薬の組み合わせを決める。

糖尿病の治療法は日々進歩しており、血糖値を安定させつつ血管や内臓への負担を抑える薬のほか、1日の血糖変動を簡単に測定できる持続血糖モニタリング、インスリンの注入量を血糖値に応じて調節してくれるインスリンポンプなどの機器も開発されている。内分泌代謝内科の遠藤逸朗診療科長は「10年前と比べても、治療効果はかなり良くなっていると感じる」と話す。

### ◆人材育成と研究

県内の治療体制を充実させるために力を入れているのが専門医の育成だ。かつては志望する学生や若手医師が少ない時期があったが、研修指導医や専門医を中心に教育と研究に取り組んだ結果、ここ10年間は毎年少なくとも1人が内分泌代謝内科の門をたたく。1年で5人入局したこともある。

研究も重要な取り組みの一つ。2010年に開設された糖尿病臨床・研究開発センターでは、臨床研究として県内企業の協力を得ながら、約1400人を対象に糖尿病発症の予知と予防因子探索を目的として現在まで18年間、追跡調査を続けている。血糖値の調節や脂肪酸の分解に関与する善玉ホルモン「アディポネクチン」の血中濃度で、糖尿病の原因にもなるメタボリック症候群発症のリスクが分かるなどの成果も出ている。

1型糖尿病の根治を目指す再生医療の臨床試験も実施。基礎研究として、細胞内の小器官「小胞体」のストレスを制御することによる治療法の開発、ダメージを受けた膵臓のインスリン分泌細胞の機能回復に関する研究なども進めている。

遠藤科長が会長を務め、院内に事務局を置く県糖尿病協会（JADEC徳島）が、県医師会や行政とも連携して、県民への啓発活動、医療従事者の教育や災害対策などに取り組んでいる。

### ◆生活習慣改善を

このように多岐にわたる活動を展開する徳大病院だが、遠藤科長が重要性を強調するのが、家庭での食事と運動療法だ。「糖尿病の発症と進行には、西欧型の脂質が多い食事と、車社会による運動不足が影響している」と指摘。

「どれだけ医療が進んでも、生活習慣を改善して、それを継続しないと意味がない。患者さんには適切な治療を受けるとともに、正しい知識を持って健康寿命の延伸に取り組んでほしい」と呼びかける。

糖尿病による死亡率ワーストからの脱却は、県民一人一人の意識にかかっている。

（新居和人）



糖尿病患者の診察に当たる遠藤科長
＝徳島市の徳島大学病院

## 22日に糖尿病フォーラム
### JADEC徳島など

徳島県糖尿病協会（ＪＡＤＥＣ徳島）などは22日、「ダイアベティス（糖尿病）フォーラム徳島」を徳島市のふれあい健康館で開く。参加無料。

糖尿病やサルコペニア（加齢による筋力低下）をチェックするブースを設け、血糖値の指標であるヘモグロビンＡ１ｃや体脂肪率、筋肉量などを測定する。

健康・医療相談では、糖尿病専門医師や歯科医師らが糖尿病、肥満症、各種合併症、歯の磨き方、日常生活での注意点などをアドバイスする。最新の治療機器や薬品、療養食なども展示する。

午後１時～３時。問い合わせは同協会事務局、電話088（633）7587。